

人

六一五 受信一六五〇二五 譯了一六四七 電〇七七二九六 整備

緊急

東

通

佐

通

機密第一五一三〇三番電 二分ノ一、二

發 川南技術長

宛 軍務局長 運輸本部長 軍令部一部長

六月十三日迄ニ一應買収又ハ徵傭セルモノ總計約五〇〇隻船種 漁船

雜船 機帆船 (概ネ七噸以上速力四節以上)

ニ六月二十日迄ニ一〇〇〇隻(累計)トナル見込内月末迄修理ヲ要ス

ルモノ約一割程度

三 作戰ニ充當スベキ機銃至急現地ニ出廻ル様手配サレ度

四 作戰實施ノ時機ニ依リテ速ニ作戰行動用ノ燃料ヲ各地ニ準備ノ要アリ

五 詳細ニ關シテハ追而通知ス

通 八〇五五 呂一Bケ十二(一〇四〇〇K) 佐通 片山(新井)

昭和廿六年六月廿七日

作

六一五

受信一六二二

譯了九三〇

電〇七五〇〇六

作 概

昭和廿年六月拾六日

父島通信除

父島根戰團概報着信艦所

機密第一五一三一一番電 二分ノ二

父島根據地除戰團概報(六月十四日)

一〇一五ヨリ三〇分間 P151 一機一二三〇ヨリ四〇分間

四F1四 十機來襲主トシテ二見灣内船艇及沿岸ヲ銃爆撃二

〇〇〇ヨリ約一時間半ニ亘リ南下中ノF3A1二 二機ハ母島

輸送ナシツアル機帆船ニ對シ執拗ナル銃爆撃

三臺間三回哨戒機ヲ探知ス〇〇三〇頃小數編隊機ノ北上ヲ測

ヤリ戰果ナシ

四被害重傷一大發艇沈没二(内一雷裝艇)大破二(使用不能)機

帆船熊榮丸小破ヤシメラル修理可能ノ見込

通八〇六六二

呂ノBシ十二(一〇二〇〇KG)父通坂本(護瀨)

丸山

雲小雨露曇一〇雲高三〇〇〇

二戰果ナシ

三敵害

(1) 修理中雷電二機零戦五機炎上零戦一機發動機故障、為不時着大破

搭乗員(梅村大尉)重傷

(2) 鳴尾飛行場滑走路不發着夷彈、為約一〇〇箇所小破孔本日中使用

不能

六一六五 受信一三三四〇 譯了一七一五 電〇七八二八 作 概〇

至 急

共

符



西海航空隊 東通・聯合艦隊口・第六艦隊口・六三一空

機密第一五一四〇二番電

發 六三一空司令

通報 航本教育部長 攝津艦長

左ニ依リ對攝津爆撃訓練實施方御取計ヲ得度

一自六月二十一日至同二十四日及同二十五日至同二十八日月夜一日沒

後ヨリ約二時間

二晴嵐三機乃至六機一駐及三〇駐演習爆彈情況ニ依リ二五〇駐演習爆彈

三緩降爆超低空爆撃

四使用海面備後灘又ハ燈 離希望

五使用基地福山航空隊

呂一

五十二

吳

渡邊

田

昭和六年六月廿七日

677

YR

六一五
受領一八七五二

歸一八九二〇 電〇七三三八

作
概
本〇

昭和廿年六月拾六日

至 急
鳴尾航空基地



東
大村航空基地・吳 通

機密第一五一一五一一五番電

發 川西監督官

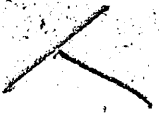
宛 航空本部 總務部長

通報 第十一航空廠總務部長

三四三空司令 堀尾基地 紫電二一型十七機中大破炎上格納庫三棟全燒

其、他被書輕微

通入一六二 呂一〇〇 坂 山本(吉 二)



六一六
受信 〇〇五〇
開始 〇八一五〇
譯了 一〇四五
電 〇七六八九
作 航本〇

昭和廿年六月廿九日

至急



東通・横通・吳通・佐通・阪通・聯合艦隊・三航空艦隊
海護總司令部
父根

母島警備隊

機密第一五二一〇五番電 二分ノ二

着信者 大海參一部長・横濱參謀長・吳鎮參謀長・佐鎮參謀長・阪警參謀長・G參謀
海護總司令部參謀長・三A參謀長・編隊群ヲ以テ縱長或ハ横長ノ
最近敵機群ノ内地侵攻ノ際ハ概ネ十機程度ノ隊形ニテ進行我ガ本土ノ
哨戒線ヲ偽瞞スル爲偽進路ヲ採リ急襲獨得ヲ以テ當隊電探報告ノ敵進
航方向ニ當リ廣範圍ノ警戒待機姿勢ヲ必要トシ敵機ノ歸復概ネ數機又
ハ單機ニシテB一・二九ハ時ニハ兩側ノ二推進翼ニテ減軸運行悠々歸
ルモノアリ當隊報告敵機數ハ電探反射波ヲ概ネ三倍シタルモノナルモ
從來ノ經驗上改メ見當數ヲ附加。

通八四六九

呂一Bノ十二(五一〇〇C)母警

中島

中井

八四三九
オ一六(五二九五)(六F)放

安(京)

二二五〇敵艦送船一ヲ撃沈セリ
レハ一六。

	課長						
A							
B							
E							
J							

機密第一六〇一四三番電

六一六
受信開始〇二二二五
終了〇二二四二
電〇七四八二
作概

昭和廿年六月拾六日

三六三

昭和廿六年六月拾八日

一六 受信一七三九 譯了二三三三 電自〇八一〇九 航作概本
譯始二〇二五 至〇八一二一

至急

作

着 東京通信隊 聯合艦隊中 鹿屋航空基地

發 共 符

機密第一六〇七一九番電 四分一三四

發 第四艦隊參謀長

宛 G B 參謀長・T F B 參謀長・大本營海軍參謀部

第一部長

今次、英機動部隊 P T 來襲時、航空關係參考事項
左、通

一、十四日(第一日)晝間攻撃に於て敵機ハ往路ハ空母(P T
南方五〇哩附近)ヨリ直航路ヲ取ルモ歸路ハ迂回航
路(七曜島方面)ニ集合シ、上西方ヨリ歸投)

通 八六九二 呂一 B 七十二(一七六三〇 K)四通
八七六一 風間(增田) (1)
八七七二 伊藤

三夏島 秋島 中間防空泊地ニ收容セル艦艇ヲ狙フモ強國

ナレ防空陣ニ依リ一機ヲ撃墜破セル他機ハ攻撃ヲ續

行セズ 一般ニ爾志旺盛ナラズ

四、夜間攻撃ハ三機宛來襲一機照明セル他機ハ之ヲ利用

「ロケット」爆彈ニ依リ緩降下爆彈ヲ實施スルモ精度良

好ナリ

五、巡洋艦ニ空母搭載機ヲ使用(巡洋艦ニ搭載機ナシ)

六、十五日夜間水偵ヲ以テ秘匿基地ヨリ飛行機收容中、

空母攻撃ヲ企圖セルモ發進 間ニ合ハズ取止ム。

(電信課設 四分、二未着)

陸軍省
陸軍部



緊急

六一六 受信一六二〇 開始一七一五
電一八三〇 電〇七八三五

東京、二一各通機隊

機密第一六一二四五番電 二分ノ六二

宛 燃料 廠 實驗部岡本參謀長

通線 西威實總參謀長 東京陸軍整備局長 昭南南方燃料工廠長

ヌラバヤ、シヤワ燃料工廠長

パリツクバパン陸中連電第四一號

六月十五日敵ハ約一時間パリツクバパン空襲後戰艦巡洋艦ハスンボ

チヤ附近ヲ燈砲射撃セリ

三一〇ニ燃料廠ハ夕刻ヨリ裝置施設破壊ヲ開始ス

通八七七八 呂一Bケ一二一七六三〇EC 二一週半澤(金森)

昭和廿年六月拾七日

作務 〇
本二無

當連絡所ハ本日ヲ以テ閉鎖第五二燃料廠ト共ニアリ戰況ニ依リテハ
同廠ニ進セシム

陸軍省ヨリノ暗號書上下夫ニ規則ニ從テ燒却
五南燃出張所高木中尉外一名モ行動ヲ共ニス。

六一七 受信一〇八一五五 譯了一四二五 電〇〇八三二九 謀通

● 南支那海方面特情着信艦所

● 共 符

機密第一六一七三二番電 二分ノ二

一 一 根南海特情 (十五日)

二 「ラプアン」方面策動部隊旗艦ト推定ノモノニ日以降連日北濠艦船系

ニ出系「セブ」旗艦「レイテ」等ト交信シ其ノ狀況ハ漸次緊迫化ノ傾

向特ニ十五日單獨ニテ重要通信多數ヲ着信セリ方位(十二日ニ三度「

モロタイ」十三日一一五度十四日一一四度十五日一二八度)

三 (一) 項中關聯「モロタイ」「アドミラリテイ」「マツクアサー」司令部

及「モロタイ」方面指揮官間ノ通信連絡逐次活潑トナリアルハ特異ニ

シテ敵ハ「ボルネオ」南ニ對シ更ニ積極的策動ニ出ル算アリ。

通九一三三二 口一Bケ八(一七五九〇EC)十通 長谷川(久保田)

昭和廿年六月拾八日

至急

六一七

受信〇二四二
譯始〇四一五

譯了〇五三〇

電〇八一三六 作

編

687

父根 根

父根戰國報着信處所

機密第一六一八五五番電 二分ノ二

四發射彈數(一門平均殘彈數)二五耗機銃七二四(一六・九三)一

三耗機銃八六(二八一〇)

五一二三八ヨリ約三〇分間硫黃高哨戒驅逐艦一母島ノ二〇〇度

六〇新附近ヲ游弋哨戒後南方ニ退去セリ

通信課註 本電二分ノ一未着

通九〇五一 口一ロケ十二(一二六七) 横浦 龜山(佐藤)

昭和廿六年六月拾八日

昭和廿年六月廿八日

六一七 受信開始 〇〇三〇四〇五 了 〇四〇五 電 〇八〇九〇 作 688

共符

運輸本部



海上護衛總部隊・豊國丸・大警部隊・横領戸

機密第一六二一〇六番電

大警參謀長

豊國丸が六月十四日辰方ニ於テ先ンジテ敵浮上潜 水艦ヲ發見

直ニ果敢ナル攻撃ヲ加ヘ之ヲ遁走セシメタリ

右戰鬪行動ハ海上輸送戰士ノ本領ヲ遺憾ナク發揮シタルモノト認ム

九〇一二 天二〇ヶ十二ハ 一六通 官未(大)一

至急

六一七

受信一六五〇五
開始一六一〇五

丁一七二〇

電〇八三三〇
〇八三三一

航作本
〇

昭和二十年八月八日



東通

二南遣艦隊P

一〇方面艦隊P

機密第一七一〇三一番電

二分ノ六二

發 參謀長

宛 東京中央

位ニ戰團機

當方面全域既ニ敵哨戒機ノ行動圏内ニ入ラントスル時徵備航空輸送部ノ現組織ヲ以テズル定期航空ニ對シ運航ハ事實上不可能之等ヲ作戦線送ニ挺身セシムル様至急左ノ件取計ヲ得度

一、スラバヤ一及昭南各徵備航空輸送部ヲ綜合之ヲ方面艦隊ニ附屬

通九二八九
九二九〇

呂一Bケ十二(一七五九〇)一〇通

(1)

明比(島田)

三 當分ノ間内地方面へ輸送本部及大日本航空株式會社本社へ下網縁
 (但シ必要最小限ノ人員機材補充ハ方面艦隊ヨリノ要求ニ依リ運
 輸本部ヨリ實施ス)

三 正作施設ハ之ヲ一〇航空隊ニ移管ス。

(2)

六二七 受信一五三。 誤了。八二七 電〇八七〇八
誤始二三四七 航作概本

作

鑛 警告口

航空下部・五航空艦隊口
九〇一空釜山派遣隊・元山航空隊

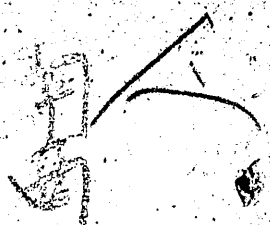
機密第一二四一〇番電

參謀長

五三奥雷調整班先發隊九九名元山進出豫受ニテ本日
當取着ノトコ口同基地八目下收容余力殆ドテキフミナラ
ズGB受令作第六七号特令ニ依ルテ施設輻輳ミアリテ
當分ノ調整關係上施行困難ニ付釜山基地ニ配
備ノ適當ト認ム。(東通該本發誤字極々多シ)

通 九三九二 忠一B 斤十二 (七五〇五K) 吳(通) 永田(三石)

昭和廿年六月拾九日



六 一 八
緊急

受信 〇九三五
譯始 一〇〇五

譯了 一一〇〇

電 〇〇八七八一〇

作概 〇

共

符



舞鎮口・三一海防隊ノ・一〇五戰隊

海上護衛總隊・舞鎮護衛部隊・一護衛艦隊
一〇三戰隊ノ・鎮警口・九〇一航空隊

機密第一八〇四三〇番電 二分ノ一、二

發 沖繩海防艦長

戰 闘 概 報

本艦海二〇七ト共ニ一八五〇遭難現場着遭難者六一名ヲ救助二〇三

〇 一先ヅ救助ヲ打切り佐渡ニ向ケ搜索針路ニテ東航中二二二〇艦

尾約五軒ニ敵大型潜水艦浮上追躡スルヲ發見直ニ之ヲ砲撃四齊射ニ

テ潜没シタルヲ以テ反轉之ニ向ヒテ四迄對潜彈二五發ヲ發射僚艦

ト共ニ探知セルニ現在迄敵情ヲ得ズ物々明迄附近掃蕩ノ豫定遭難者

走ニ依リト毎二隻ノ潜水艦現場附近ニ集本隊到着ノ豫定時間前ニ遁

通九七二五 天二Bケ十二(B) 吳通 菅原(小澤綾)

昭和廿年九月拾九日

大 一八

受領 二一〇三〇〇

丁 二二五五

電自 〇〇九一八七九

支 那 方 面 監 隊

青 島 視 察

軍務局・南京、天津、北京各在勤武官

機密第一八一〇三七番電

四分ノ二、三、四

通 報 注 記 官

一、青島艦隊隊長機密第一五一七四三番電返

二、類ニ於テモ北康動及元奉船檢出ノ指令ヲ與ヘタル覺ナキ由ニテ當

方ニ於テモ本件了解シアラズ北支方面局地檢送ニ關シテハ二三ニヨリ

實加相配度

三、支那ニ於ケル國家檢送ニ關シテハ當艦隊機密第〇六二二一〇番電ヲ

以テ通知シアル所在支船船運管ノ一元化ヲ圖ル爲六月七日以後軍

艦隊營業側ト檢査ノ結果左ノ種類別ニ依リ一支配艦隊管理ヲ

通 二〇〇二八・二〇〇二九

三二〇七二二(三二〇六五五)上海
田中・伊藤(飯田)

昭和廿年六月拾九日

692

一 州府縣各々、決定計書案、送付了知、知照成候

(一) 各該府縣、本州の支那系商社及支那方面商社之ヲ相察

(二) 支那系商社ノ計書一覽之ヲ電報ニ關シ必妥ナル事、速ニ處理スル

爲候旨、仰付

(三) 委員會ハ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

候旨、仰付、委員會ノ組織ニ關シ、陸海軍省、商工省、農林省、及官報委員等、出名之ヲ構成

六一八 受信二三二九 譯始〇四一二 譯了〇五〇一 電〇〇九一四〇九 航作 〇〇
 至 急 鹿屋航空基地



● 富高、出水、指宿各航空基地。佐鎮P・五航空艦隊P。
 ● 第五特攻隊
 ● 海軍總隊司令部。三一、三五各特擊隊。九州航空隊

機密第一八一七三五番電 二分ノ一二

發 G B 浦部 參謀

宛 參謀 基地指揮官

一、陸軍ニ於テ決號作戰ニ關シ左ノ兵棋演習アリ關係主要職員ニ對シ參

加ノコトニ取計ハレ度

(1) 第二一二師團

(一) 期間自六月二十三日 至 六月二十五日

(二) 場所 都農町國民學校

通一〇〇二八 呂一B八十二(七八七五K)一KFG B 放仲井(新井)

昭和廿年六月拾九日

(四) 第四〇軍

(一) 期日 自六月二十七日 至六月二十九日

(二) 場所 鹿兒島附近場所未定 (第五特攻戰隊司令部及九州航空隊司令部ニテ第四〇軍司令部ト連絡ノ上關係各部ニ通報アリ度)

ニ第四〇軍兵棋演習終了後第四〇軍主催ノ下ニ薩摩半島地區ノ海軍基地防衛ニ關スル陸海軍打合實施ノ豫定ニ付準備シ置カレ度。

人

六一九 受信〇〇八四五六 譯了〇九二〇 電〇九三〇七 航作概本〇



通信文内容表示戦闘概報・千島防備部隊

五二 警備隊

機密第一八一八四四番電 三分ノ一

第二警備部隊戦闘概報第二一號（六月十八日）

摺鉢地區一二三〇敵機二乃至三機二〇〇度方向ヨリ侵入摺鉢灣碓

泊中ノ機帆船二隻（第八通勇丸日榮丸）附近爆彈數發投下白濱附

近ヲ〇度方向ニ避退セリ戦果被害ナシ

●電信課註 本電三分ノ二、三既配布

通一〇二八五 天二日ケ十二（B）大通 武藏（上野）

昭和二十一年六月廿四日

六
八
受信二五。譯了。六三。電。九一八五。
譯位。二。〇。九一八四。
船作概
政。

着

船政平部・佐藤氏

奉

共

符

695

作

九州海軍監督長

大牟田市被害報告

本市ハ連日三ヶ焼夷彈ニ若干ノ小型爆彈ヲ交シ建築物被害アリ
此五場・亦一報ニ追加訂正スベキ被害左ノ如シ

三ヶ池染料

(一) 本事務所(元半焼)全焼書類全部焼失

(二) 業務清況 亦一工場倉庫製成品焼失セルモ復舊容易ナリ

三ヶ池全焼

東洋製鉄横須工場

(一) 給水冷却管ハ也リ移設(二箇所)予定差当ナクトモ工

通
一〇一五九
一〇一三四
天ニBHT二(五三。〇。〇)伏通

咲花

(一)

昭和十六年九月九日

産支障ナシ

三三製煉耐火煉瓦工場全焼差當操業不能
四今月中全三ヶ空籠被割主タルモノ

(1) 石炭酸概一〇噸減産

(2) エークスガス削減

(1) 各関係協會社トモ最大率五乃至七〇%ヲ保チ自力ヲ操業得ル見込

(東通註) 本電誤字多ク屬違延

(2)

昭和廿六年六月廿日

六一九 受信〇七四五〇七 譯始一七五〇七 譯了一九〇〇 電自〇九六五八 電至〇九六六〇 作概△〇

至

急

● 佐領大島方面部隊

● 六 艦 隊

● 佐領口・吳領口・一六潜水隊卜・波一〇三



機密第一八二二二二番電

三分ノ一三三

貴機密第一八〇九四五番電返

一 西水道ヲ可トス

二 泊地俵小島平潟知志音岬ノ三四〇度九〇〇米

三 〇五三〇ヨリ一九〇〇迄本島周邊ニハ殆ド常時敵機在空ニ夜間ハ時

々一乃至二機程度一晚ノ間ニ一、二回(時刻不定)來襲スルコト

光弾ヲ投下銃聲

通一〇五〇九一〇五一〇

呂一Bケ二二(九八三〇KC)佐二坂 新倉(上野) (一)

四敵ノ照明下ニアリテハ哨戒圈浸洗状態ニテ微速或ハ停止後全没ス
ルヲ要ス

五一九〇〇迄ハ水道西口北方一〇哩以上離レタル海面ニアルヲ可ト
ス通峽ハ爾後ヲ行動モ考慮二〇三〇ヨリ二一〇〇ヲ適當トナス

六西口着ノ豫定時刻ノ二時間前ヨリ通峽^通會津高及久慈灣衛所ニ白
燈一點出但シ敵機在空場合ハ便宜消燈ス

七觀音寺岩附近^新美丸(特設驅潜艇五九一噸)ヲ水先案内^ハ爲派遣
シ正規ノ味方職別信號ニテ紫月島ノ東南入口附近ニテ水先人ヲ乘
艦セシム

八入港後狀況許サズ直ニ艦長ノ來隊ヲ求メ細目ノ打合ヲ行ヒ宜シク
シ其ノ儘東口ヨリ出撃ノコトト致度
尙東口迄報國丸ニ先導セシム

白

六一九 受信一一一五 電話九九三八五 災痕◎
開始一二二〇

● 氷川丸

● 聯合艦隊口・海軍總隊口・佐飯口・舞鏡口
● 大本營海軍部・偵察口・七艦隊各口・吳鎮口

● 電令第四七號 九〇六四三番電 二分、六二

六月十九日〇五〇〇佐世保發六月二十日一六〇〇舞鶴着、穩定

三佐世保二於ヲ療養吳鎮在籍者其ノ他二九七名轉歸舞鶴佐飯

轉送患者八〇九名（佐病三四九應病二三五大村病二二五）ヲ收容

三在印患者總數一一八七名（內進・五〇機二二〇）内ハイロウ科一

一九 傳染病一 國神藥科一三ヲ含ム

四遺骨一八六柱

此外二海軍總隊ノ日赤救護班三班ニ乗船ス。

昭和廿一年九月廿四日

電信課 第十課

697

天二、タ一三（九八二〇四）機二放
中島、才夫（一等海軍）

0346

作

緊急

一九
受信一七六一五

譯了一九三〇

電〇九四九三
九四九四

作
概

横
東
通・母
島
通

父
通

698

機密第

十九一二五二番電
二分ノ六二

發
父島根據地隊司令官

宛
横領參謀長

通報
參謀長

參謀長
大本營海軍參謀部第一部長
三

局長一課長	局長一課長	局長一課長	局長一課長	局長一課長	局長一課長	局長一課長	局長一課長
A	B	E	J	G	H	I	D

一十七日一九二二 三〇度四五行ニ艦船ラシキモノ出現爾後約一時間

ニ互リ島東南方ヲ徘徊セルヲ電測セリ

一〇四九一
一〇五〇一
呂一三
一〇〇〇〇
高橋・淺田(吉田)

昭和廿年六月廿日

二十八日一九〇〇七・二〇度四五〇軒ニ再度出現十九日〇一二八〇

度遠距離ニ照明彈續イテ約一時間半ニ互リ斷續的ニ閃光ヲ認メ砲聲ヲ

聞ク

右ハ二〇四〇消滅セリ

陸軍機帆船ニ對シ艦砲射撃ヲ加ヘタルモノノ如シ

爾後敵ハ〇五一〇・二六〇度四〇軒迄南下後感度消滅セルモ〇六三〇

再度〇度遠距離ニ砲聲數發ヲ聞ク

四最近敵ハP一五一ノ晝間來襲時ニ於テモ必ズ對島周邊迄北上哨戒スル

ヲ常トシ次ニ四巡艦一隻ヲ夜間嫁島附近ニ配シ内地父島間交通妨害ニ

努メアルモノト認ム

東通註 二分ノ一聯合艦隊通報

昭和廿年九月廿日

六二〇 受信一六三〇七 譯了一七〇〇 電一〇〇七八 航作 本概〇



鹿屋、大村各航空基地
大分航空基地
築城航空基地

機密第一九二三五五番電 四分ノ四

三 現状ヲ以テ作戰スルトセバ左ノ範圍ヲ出ズ

(1) 基地附近ニ於テ邀撃戰不能 戰鬪機隊ノ南九州方面ヘノ進出邀

撃ノミ可能 (右ニ指揮官ハ鹿屋ニテ實施)

(2) 羽光機ノ發進邀撃夜間着陸ニハ大村ヲ使用敵機捕捉ノ可能性殆

ンドナシ

(3) 訓練ハ雨後二日ヲ除キ支障ナシ。

(電信課註 本電四分ノ一ニ三未着)
通一〇九八二 呂一ケ一ニ(七八七五KG)一KFGB放 田(雨谷)

人

六二〇 受信 二七三三
開始 二〇三〇
了 二一三五 電 〇九九七三 作 〇

昭和廿年六月廿五日

作

共符

大湊警備隊、大湊防備隊、五二警、五七警備隊
大本營海軍部、海軍總隊口、小樽在勤武官
一〇四戰隊、秋田地方人等部

機密第二〇二二一三番電

701

通報 船川在勤武官

大警信電令第六二號

一、五二警備隊舊乙女灣連綴基地員及根茂見張所員並ニ五七警備隊舊武口
順連綴基地員（兵器基地物件ヲ含ム）ヲ大湊防備隊司令ノ指揮下ニ
入ル

ニ大湊防備隊司令ハ右基地員ヲ可及的速ニ福島及壽松ニ進出主トシテ船
川小樽間航行船舶ニ對スル見張連結ニ任ゼシムベシ。

通一〇二四 天ニケ一（B）大湊 原（島田）

1930

人

六二〇 受信一九一七 譯了二一〇〇 電〇九九六三 作概〇
電〇九九六四 航本

至 急 大 臣 海軍總除口 佐 鎮 口



各領各警口 (陸海軍各口)

機密第二〇一三四八番電 二分ノ一二

佐鎮敵機襲撃状況概報 (六月二十日)

一、四) B一ニ九約六〇機單機又ハ數機ヲ以テ十九日二三一〇ヨリ二十日〇

一〇〇ノ間ニ逐次宮崎附近ヨリ侵入八代佐賀附近ヲ經北上福岡市街
ニ投彈 (主トシテ燒夷彈) ノ後二三三五ヨリ〇一〇八ノ間ニ延岡附
近ヨリ南東方向ニ脫去ス

(同) 被害詳細目下調査中ナルモ現在迄判明セル所部内博多水交社全燒

遺一〇九九三〇 呂一Bケ十一 (九八三〇KG) 佐二放 佐藤・小原(阿波) (一)

702

武官府監督官事務所地方人專部異狀ナシ
部外市内家屋全焼約五千戸罹災者約二萬

三二十日

(イ) グラマン戦闘機二機 P-1三八 一機大村地區ニ來襲内十二機
投彈(時限爆彈ヲ含ム)ノ後南方ニ脱去ス
(ロ) 被害 二一航空廠工員死傷四及大村市街ニ箇所ニ小火災發生セ
ル外ナシ

(二)

六二〇
受信〇一一二五六

譯了〇三一五 電一〇〇九五 作機〇(人)

昭和廿五年九月廿五日



機密第二〇一四五五番電

發 浦部參謀

宛 參謀

先般貴部ニ於ケル第五七軍追加ノ際第四〇軍參謀ヨリ聞知セル所ニ依
 レバ近ク陸軍震洋艇約八〇〇隻海軍ノ指揮ニ入レ前以テ戦闘部隊實戰
 部隊ニ展開セシメラルル由ナルモ之ガ展開ニ先ツ海軍ニ於テ教育訓練
 及施設準備内命ノ要アリト認メラルルニ付第十六方面軍ニテ臨機ノ
 情況調査ノ上處理アリ

通一〇一〇
 呂一〇ケ十二(口) 吳 中里(新) 田)

34

六二一
受信一五三二〇三
了—五四五 電一〇三〇〇
航作概本〇

至急
九〇一航空隊

九〇一空釜山派遣隊
海上護衛總隊 九〇一空總派遣隊 一護衛艦隊

機密第二〇一六〇三番電

本二十日釜山派遣隊戰團機隊方敵哨戒機ヲ捕捉一機擊墜一機擊破ノ

戰果ヲ舉タルノ見事ナリ。

局長						
一課長						
A	L					
B	K					
E	I					
J	C					
	H					

通一四四八 天二Bケ十二 (阪警 岩田(半) 澤)

昭和廿六年六月廿四日

緊急

六

受信二一四六
開始二二三〇

譯了〇一〇〇 電

二〇二〇

作戦〇力
九

昭和廿年六月廿二日

停

六艦隊
一六潜水隊
波一〇三

大島防備隊

佐領P・吳鎮P・南大東島派遣隊

機密第二〇一七三七番電 二分ノ下ニ

参謀

南大東島ニ於ケル補給ハ左ノ要領ニ依ルコトト致度（現地ト協議済）

一、最良ナル揚搭地點西海岸揚陸場

二、左記要領

(1) 沖荷役中漂泊ヲ可トス

(2) 使用積出解舟三艘積五半 積三

(3) 時期日没一時間後ヨリ日出迄一時間前

三、入港目標及連絡法

一、一四二

通一、一六七
呂二Bケ一二（九八三〇C）佐二放

森
岩日
（岩崎）(1)

- (1) 長塗 港岸壁徐航 (スケレット) 夜間ハ同岸壁ニ白燈一點出
- (2) 同所ヨリ手旗ニアルハ發光信號 (問語「ヲカ」答語「ハ」)
- 四 泊地附近天候海上ノ模様及敵情通報
- 五 便乘者及托送物件
- (1) 佐世保工廠部員二名工員三六名患者一五名 (人員及其ノ携行物件
ハ特ニ嚴選シ必要ノ最小限トス)
- (2) 打殺及砂糖可成的多量以上直航時ノ參考迄ニ

人

六二一 受信〇〇四一四七 丁〇五〇五 電 〇〇一三九 作概〇 統本〇

作

横領戰團概報着信所

横領戸

機密第二〇一七四番電

二分ノ二

横領戰團概報（六月二十日）

下B1二九約三四〇機三梯團五分ノ來襲セリ

(1)七機〇〇二〇頃鹿島灘ヨリ本土ニ侵入新潟附近海面ニ至リ機

雷投入後反轉〇二一〇頃迄ニ鹽屋附近ヨリ脱去

(2)約一二〇機〇〇四五頃ヨリ約二時間ニ互リ逐次駿河灣ヨリ侵

入静岡清水附近ニ燒夷彈攻撃ヲ行ヒタル後〇三〇〇頃迄ニ概

本御前崎附近ヨリ脱去

通 一一二五九 己一Bケ一二（一二六KG）横瀬放高 日野原（細川）山

昭和廿年六月廿九日

- (イ) 約一一〇機二三三〇志摩半島ヨリ侵入其ノ先頭約二〇機ハ若狹灣ニ至リ機雷ヲ投入後續約九〇機ハ豊橋ニ燒夷彈攻撃ヲ行ヒタル後〇三一五頃迄ニハ概ネ遠州灘ヨリ脱去
- (ロ) 航空戦横領第三航空部隊戦闘概報所報通
- (ハ) 地上砲火發射彈數(大恩寺砲臺)二十五耗機銃彈一二〇發戰果不明

三、被害詳細不明ナルモ海軍關係被害僅少ノ見込

人

六二一 受信一四一六 譯了一五二〇 電一〇三〇二 作概〇
開始一四四五

緊急

共

符

作

一〇二戰隊下。羅根下。第二號海防
屋代・九〇一空羅津派遣隊

鎮警下。清津在勤武官

【通報表示】

機密第二〇一八三五番電

三四號海防艦長

戰術速報第一號

一七一四北緯四一度四四分東經一二九度四九分ニ於テ二四〇〇感一
ニテ敵潜水艦ラシキモノ探知一五〇〇ニテ感三 一八〇〇ヨリ感度
底下爆雷攻撃（一八個）ヲ爲ス目下巾一〇〇長サ一〇〇〇油帶ア
リ今夜攻撃點ヲ中心トスル敵掃蕩ノ豫定。

通一一五三七

於一七（B）佐通

小林（林部）

昭和廿年九月廿五日

707